

都 退 教 協 だ よ り

No. 275号

2016年12月21日発行

東京都退職教職員協議会 会長 柴田 迪春

〒101-0003 千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館 2F 東京教組内

☎:03-5276-1311 FAX:03-5276-1312 Mail:totaikyokyo@tokyokyouso.org

— 都退教協 秋の交流会 —

縄文弥生から江戸幕末、近代まで一万歩の上野散策を楽しみました

秋晴れの11月7日。恒例の秋の交流会が上野公園で開催されました。西郷さんで会いましょうを合言葉に集合。上野の山は縄文時代から人々がくらし、関東大震災、東京大空襲では多くの都民が避難した場所。西郷さんのすぐ前には彰義隊墓地があり、近現代史の舞台でもある。

清水観音堂（1631 創建）— 一時忘れじの塔（関東大震災、東京大空襲を忘れないための母子像）— 播鉢山古墳（前方



後円墳）— 野球の名付け親、正岡子規の碑— 西洋美術館（コルビジェの建築として世界遺産）— 野口英世像（科学博物館前）— 哀しみの東京大空襲慰霊碑（上野中学の手前）— 旧因州池田屋敷表門— 黒田清輝記念館— 旧東京音楽学校奏楽堂（工事中）— 広島・長崎の（東照宮で今も火を灯し続けています）— 時の鐘— 上野大仏— 不忍池— 池之端までで丁度、一万歩。

交流会は、春日通りの韓国料理屋で美味しい料理とマッコリで談笑しました。

皆さまの声をお寄せください。

全員に、返信用の年賀ハガキを同封いたしました。

本誌を会員の交流の場にするために、皆さんの思いや近況を掲載させていただきたいと思いますので、都退教協に年賀状を出すつもりで是非ご協力ください。また、都退教協へのご要望やご意見も寄せていただければ幸いです。

「都退教協だより」の紙面充実のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

青年教職員は今

東京教組青年部が毎年実施しているアンケート（243名回答）がまとめられた。

今年も青年教職員の不安や悩みや、長時間勤務、パワーハラスメントに苦しみながらも、働きがいを持って頑張る姿が浮き彫りになった。

長時間勤務の実態は、昨年よりさらに深刻になっている。なんと、平均勤務時間12時間17分。過労死が心配される超勤月100時間以上の人半数もいることが明らかになった。

福島第一原発(フクイチ)の現地の今 「楡葉町訪問研修旅行」に参加して

柴田 廻春

私は、9月20日、葛飾区学び交流館利用団体協議会主催の「楡葉町訪問研修旅行」に参加しました。「百聞は一見に如かず」、が「研修」最大の印象です。

楡葉町に到着し、高台にある天神岬公園に立った時、まず目に入ったのは広野火力発電所の巨大な煙突でした。福島原発の電力は首都圏に送電され、地元では使われていないことは前から知られています。広野火力の発電力は主として原発稼働用で、南相馬市原町区にも同様の火力発電所があります。原発は他からの電力供給がなければ稼働しません。福島県双葉郡には「3.11」で爆発した第一原発4基の他に大熊・双葉町に5号・6号機があり、第2原発が富岡・楡葉町に4基、合計10基あります。

私にとって福島第一原発(事故も含め)は、決して他人事とはありえません。今から50数年前ですが、私は南相馬市小高区にある県立高校に勤務し、約1年半「いわき駅」からSL列車で片道1時間50分の通勤をしていま



した。今原発事故によって大部分が「避難区域」になっている地域を毎日往復していたわけです。その当時「原発建設」は、「うわさ」の域を

出てはいませんでしたが、後にいわき市に転勤したあと、「福島第一原発」設置を知りました。私が勤務した高校が2校とも工業高校で、これらの地域からは多数の生徒が通学しておりました。電気科のクラスの担任でもあって、その中には原発の仕事に携わった人もいました。また、その後輩にあたる人々の中には東

電に就職したものの、今は「原発の廃炉作業」という、誠に皮肉な対応を余儀なくされている人も数多くいます。とてもやりきれない気持ちです。

それとは別に、それより前、8月22日に行われた東京教組・東部地域教研講師の福島県教組郡山支部鈴木元書記長が持参された資料に、福島第一原発事故発生状況の「時系列表」が載っていました。それによると、まず、3月11日の14:46、大地震発生1分後、原子炉は「自動停止」し、その50分後15:37には、第一原発全体の「電源喪失」となっています。つまり、事故直後に大々的に発表された、(想定外の)大津波をかぶって補助発電機が止まったので、「原子炉冷却装置」が働かなくなるとされる前に、大元の電源である原発稼働用の変電機(所)が大地震で破壊されていたこととなります。

元々原子炉本体の土台が、冷却用の海水汲み上げには高すぎるので30メートル近く掘り下げて設置され、それが事故後の「地下水せきとめ不能状態」の原因の一つになって



います。その上、谷状の低地を埋め立てた軟弱な地盤に「変電所」を設置したため、地震による振動で機能停止になったのです。この「変電所設置場所」の「危険性」を指摘した学者もいたそうです。つまり、「安全性無視の原発立地」自体が「事故」の根本原因だったことが、証明されたこととなります。

私は、今後も原発問題から目を離すことなく、自分ができることを続けていこうと考えています。

第22回 日退教 組織活動交流集会に参加して

藤崎 喜仁

10月13日、日退教組織活動交流集会がラポール日教済で開催された。

沖縄から新基地反対の特別報告

特別報告は沖縄県退教仲宗根寛勇氏から「辺野古新基地・高江ヘリパット建設を許さない」沖縄のたたかいでした。

ヘリパット建設を強行している米軍北部訓練場は、1970年から何も使われていない貴重な「ヤンバルの森」と隣接している。「ヤンバルの森」には、ヤンバルクイナ・ノグチゲラ・オオコウモリなど固有生物が最も高く生息し国立公園にもなっている。豊かな自然遺産の隣接地にヘリパット基地を建設すれば、恐ろしい程の騒音や墜落の危険性もあり固有生物や人も生活破壊されることは明らかだ。

政府は7/11から工事を再開し、東京・千葉・神奈川・愛知・大阪・福岡から500名の機動隊を動員し、県民の反対行動を暴力的に排除し弾圧している。

また自衛隊ヘリも使い作業用重



機の搬入や、2万4千本の樹木を伐採し作業道路を6mにも広げ環境破壊も公然とやっている。県内市町村や県外から連日300~500人の市民が結集し機動隊の暴力的排除に抗して闘いを続けていることが報告された。

その数日後、高江でフェンス越しに抗議していた市民らに大阪府警の機動隊員が「触るなくそ。どこつかんどのんじゃボケ。土人が。」また「黙れ、こら、シナ人」と差別発言を浴びせた。全く許しがたいことである。

退職教職員の組織拡大を！（第3分科会）

千葉高退教からは、定年退職後も再任用で働く人が多く、再任用は現職組合員の対象で、

直ぐに退職組合に加入するパターンが激減しているとの報告。組織拡大の取り組みとして、「機関紙に会員の声を載せる」各種集会に必ず「一般会員を参加させる」。年二回の「さよなら原発集会」の旅費補助を実施した結果、4年間で75名の組織拡大が実現できた。

奈良県退教からは、「日退協奈良・20年の歩み」が報告。活動の柱は「平和・学習・親睦」で様々な行事を通して、会員同士のつながりを深めることを柱にしてきた。

「わたしの戦争体験」集は2000年に発行して以来第7集まで続く。小学校での「戦争体験を語る」取り組みは、2013年まで続けられたが体験者の高齢化と学校からの要請もなくなり、100円のCD盤にして活用を図っている。

岡山県退教からは、「岡山県議会選挙の取り組み」の報告。2011年に、全て自民党に独占され県議会に県教組出身の組織内議員が皆無となった。2015年4月の選挙で組織内候補を擁立し、退職したばかりの元県教組執行委員が立候補。退職者を中心に後援会を設立し、次点との差が僅か28票で当選を勝ち取った。

最後の報告は佐賀県退教から「いまり（伊万里）菜の花会」の活動報告。「美しい町づくり」の取り組みとして初めは道路や河川敷に菜の花を植えていたが、休耕田に広げて菜種油を搾取した。裏作としてサツマイモを植え、保育園児と共に活動を楽しんでいる。5000近くの菜種油を無料配布。23の保育園に菜の花の苗を配布し「菜の花」図画展には保育園から400点もの出展があった。

組織活動交流集会の分科会に参加して四年、各県の取り組みを聞いていると「退職した組合員の活動の姿」が浮かび上がってくる。

かつて日教組の組合員だった個々人が、働く職場が無くなり生活地域の中で地域や社会との接点をどう作りだしどのように生きようとしているのか、これが運動の原点と思うよ

うになった。退職組合の活動は現職の組合と全く同じには出来ないし、退職前のように全員が国会前闘争に行ける訳でもない。組合員は地域社会に生きている。加齢からくる体力・気力の衰えや病気と自らも向き合わなければならぬ。

生きていくことを実感し、「自分のやれることは何か」を各県教組の力を借りながら地域の中で見つけ出し、社会を変えていくという関わりを持ち続けることが大切かなと思っている。

給付型奨学金制度のアピールを採択しました！

都退教協は、大学の学費の高騰と家計収入の減少により、奨学金に頼らなければ大学に進学できない学生が半数を超えるようになり、卒業しても、不安定な雇用で十分な収入が得られず、奨学金を「返したくても返せない」人たちが増加している現状に対し、「給付型奨学金制度の創設等を求めるアピール」を採択し、政府に以下のことを要望しました。

1. 速やかに大学生等を対象とした給付型奨学金制度を創設し、将来に向けて拡充してください。
2. 貸与型奨学金にあっては、有利子から無利子への流れを加速し、無利子奨学金を大幅に拡充してください。速やかに、無利子奨学金を受ける資格がありながら予算不足のために受けられない学生を解消してください。

3. 大学等の学費の引下げや授業料減免の拡充等の政策を実行してください。

4. 奨学金の制度設計や意思決定・運営に当事者、利用者などの参画をはかるとともに、情報公開を徹底してください。

都議会議員選挙勝利に向けてご協力を！

来年は、都議会議員選挙が行われます。前回の選挙で馬場裕子さんが落選したため東京教組組織内の都議会議員がいない状況が4年間続きました。今回、同じ品川選挙区から阿部祐美子さんが東京教組推薦で立候補します。私たちの声を東京都政に反映させるためにも都議選の勝利は不可欠です。

都政連（東京都民主教育政治連盟）としてのカンパ活動を行い、都退教協も全面的に協力いたします。

お願いの手紙と振込用紙を同封いたしましたので、ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

- ★退職してから職場や組合の仲間と食事をしたり、旅行に行ったりするのは楽しいものだ。昔話に花を咲かせたり、病気自慢大会になったり、「アベ政治を許さない！」と気炎をあげたり、「都退教協だより」も、そんな話題満載でみんなに親しまれる紙面づくりをめざして、今回、返信用ハガキで皆さんからの声を寄せていただくことになりました。生年月日をお尋ねしていますが、古稀、喜寿、傘寿、米寿などを紙面でお祝いする企画も考えていますのでご協力をお願いいたします。皆さんからのお便りをお待ちしています。
- ☆東京教研で作成した「私たちの憲法」（改訂版）を同封いたしました。安倍政権が本気で憲法を改悪しようとしている内容が一目でわかります。ご活用ください。
- ★年金だけで生活できるかしらと不安に思う昨今、年金カット法案が強行採決された。物価が上がっても賃金が上がらなければ、年金も下げるという代物。しかも、マクロスライドによる年金カット分はキャリーオーバーされ、年金が上がったとき差し引かれる。あー…（谷口記）